Sat 2

ブユ研究班会議

話題提供

(1) 我が国のブユ相について (中間報告)

斎藤一三[°] (横浜市大・医・寄生虫)、

金山彰宏 (横浜市衛生研究所)、佐藤英毅 (川崎市衛生研究所)

Fauna of the blackflies in Japan (interim report)

Katsumi Saito, Akihiro Kanayama and Hediki Sato

我々は我が国のブユ相について都道府県別に調査を進めている。これまで、44都府県において調査を行った成績について中間報告する。

これまで、約2,800地点で調査を行い、約2,500地点からブユの既知種4属40種と未記載種を含む約32万個体が採集された。そのうち、幼虫が約287,000個体 (全採集数の約85%)、蛹が約47,000個体 (約15%) および成虫が630個体 (0.2%) であった。

最も多く採集された種は *Simulium japonicum* の約70,000個体で全採集数の21% を占めた。次いで、*S. uchidai* の約57,000個体 (約17%)、*S. bidentatum* の約47,000個体 (14%)、*S. aokii* の約32,000個体 (約10%)、*S. arakawae* の24,000個体 (約7%)、*S. suzukii* の18,000個体 (約5%) の順でこれら上位6種で全採集数の約75% を占めた。

1地点から採集された個体数は1-593個体の範囲であった。採集個体数を級間100としたときの頻度は、1-100個体採集された地点が最も多く約1,200地点で、これはブユが採集された地点の約50% に当たる。次いで、101-200個体採集された地点が約600地点 (約25%)、201-300個体が約350地点 (約13%) であった。

1地点から採集された種類数は1-12種の範囲であった。3種類採集された地点が約500地点で最も多く、全採集地点の約20% を占めた。次いで2種類が約460地点 (約18%)、4種類の400地点 (16%) および5種類の350地点 (約14%) の順であった。

(2) タイのブユ ——最近の知見——

高岡宏行 (大分医科大学・医動物)

Simuliidae of Thailand ——recent findings——

Takaoka, H.

タイのブユについてはTakaoka and Suzuki(1984) により新種7種を含めて19種が報告されて以来久しく報告はなかったが、その後日本および米国の何人かの研究者によって採集された標本を検討する機会があったので、あわせてその結果を報告したい (なお一部の結果はすでに発表した——Takaoka and Saito, 1996)。新たに分布が判明したのは8種類で、そのうち少なくとも2種は新種である。既知種のうち3種はマレーシアおよびスマトラのブユ種との比較の結果同定を見直すのが適当とおもわれる。1新種はマレーシア半島部で記載された *Simulium pahangense* に類似の興味ある種で、既知のどの亜属とも異なる。

連絡先：斎藤一三 (横浜市大・医・寄生虫) Tel.045-787-2614